

越谷も

YES, WE CAN.

「やればできる」

発行日: 2013年3月31日

発行者: チーム白川

No.19号

事務所: 越谷市大里 226-1

TEL/FAX 048-970-8005

# 『トライ&チャレンジ』 Try & Challenge



## 越谷の YES, WE CAN. Part XVIII

東日本大震災から2年が経過し、今、全国で何が求められ、何が変わったのでしょうか。

社会保障、財政、少子高齢化、エネルギー、過疎化、農業の衰退、就職難と様々な問題が縮図のように現れ、中央集権的構造の改革、絆の社会構築が各地の行政、議会、市民、企業、団体で行われてきました。その行動には一貫して「今までのままでいいくない」という強い思いがあり、冷静に現状を受け止め、未来の為に何をやるのかを必死に考える事が出来たのだらうと思います。

越谷市では、要望のボトムアップと不利益のトップダウンだけでは何も変わらない事が災害で明らかになったにもかかわらず、逆行するかのごとく、市長から3月議会に出された平成25年度予算案は、3年連続の過去最大の予算で、財政の規律を忘れ、国政の現状と変わらない枕詞振舞が繰り返されており、市民サービス向上を盾にどこまで走り続けるのか、心配でなりません。

右肩上がりの成長が続いた時代には「依存と分配」の弊害が顕在化しなかったが、右肩下がりの現在は「自主自立のボトムアップ」へ移行し、市民が積極的に政治や地域づくりに参加することなくして、未来を搾取する社会や少数が切り捨てられるシステムが本当に変わることなどありえないのでは無いでしょうか。

中核市移行の問題から派生する、第三庁舎、保健庁建設、事務事業委託などを軸に、新しい視点で考え「市民はそれを本当に望んでいるのか」皆様と一緒にタウンミーティングや政経セミナーで考えていきたいと思っています。(合同会社代表 35歳 岡田英夫)

### 政経セミナー第2期・第8回特別講座 -12/1

- 「任せて文句を言う」習慣から、「引き受けて責任を持つ」市民へ — 依存の連鎖をどう断ち切るか —
- 講師: 福岡浩彦 / 前消費者庁長官・元我孫子市長



地方分権が進まないのは、国が障害になっているのではなく、自治体が分権を望んでいないからだということを開き、エッと思った。自治体の自由な裁量で使える「一括交付金」を増やすのではなく、ひも付きで国から与えられる「補助金」を増やして欲しいという要請がそのことを如実に示しているとのことであった。自治体で判断、実行して責任を取るよりも、国の言いつけ通りに実行している方が楽だからである。自治体の目は市民の方に向いておらず、国に向いており、市民の方

も、自分が参加して責任の一端を担おうとせず、行政と議会に厄介なことはお任せしている。しかし、この依存の連鎖構造が国の1,000兆円、越谷市の1,500億円の借金の温床になっている。私達の問題解決のポイントが、意識改革にあると思った。(年金生活者 岡村宣夫)



### グラウンドゴルフ

#### 【新田グラウンド・ゴルフクラブ】—新規参加チーム

設立は平成23年10月、会員数は19名、平均年齢は70歳で比較的若いクラブ。練習日は月(しらこぼ運動公園・芝生広場)、金(ゲートボール場)、団体戦を半年に1回。新田自治会が母体。健康で活動的なGGメンバー多数が老人クラブや



サロンの活動も担っている。又競技で使用するプレートや重しは、地域の廃材工場での手造りである。  
(自営業者 三輪長宏)

「チーム白川」の会員を募集しています。問い合わせ先: 事務局 岡村 090-3342-3064

## 政経セミナー第2期・第9回特別講座 -2/14

➤ 越谷いちごのブランド化から見えてくる農業のいま

➤ 講師: 木村友和/いちご工房木村屋代表

長柄幸聖/越谷市環境経済部長

私はこれまで「いちご狩り」をしたことはなく、越谷で「いちご狩り」が出来ることを知りませんでした。案内チラシに書かれた同上の題にひかれて会に出席しました。

『「B級グルメ」や「ゆるキャラ」で町おこし』をテレビで時々目にします。越谷も作物を特産し、近隣へ発信しようとしている、と受け取りました。

栽培に携わる木村さんのお話を聞きながら、会場で振る舞われた小さな「パック入りのいちご」をサクッと口に入れた時、「甘味ある!」と気づきました。

「いちご農家」として日々の労働や仕事上の工夫、やりがい等、少しだけ共感させてもらいました。また、行政の農業振興への施策の一端についても初めて取こする機会となりました。(千間台西在住 渡辺修二)



## 第8回桜井地区市政報告会 -2/2

前回、3名の議員が退会した後、近隣の地区から新たに2名の議員がオブザーバーで参加し、4名の議員団で報告会が行われた。初参加の議員は、支援者だけではない市民を前にして緊張感を示しつつも、市民とのコミュニケーションが大切になることがなかった。3会派の議員で構成されており、議案に対する賛否の立場が異なっている。



議決された結果は一つだが、どのような意見が出され、どのような経過で議決に至ったのかを知る事が出来るため、市民の立場でそのことをどう評価するのかを考えるきっかけとなり、市民参加の有効な方法となっている。(年金生活者 岡村宣夫)

## 第9回桜井地区市政報告会 -2/26

3月議会前の開催。3年連続で過去最高額の1,564億円の増加予算。生産労働人口減による歳入減・歳出増の流れは今後変わらない事、にもかかわらず『市民要望があるから削れない』という事で予算や新規事業の毎年増加の構造に対して、これでは次世代の生きる選択の幅を我々が狭めているのではないのか、が参加した全員が問われる報告となった。質疑は市長や行政の文句ではなく『自分達で何ができるか』を軸に、今後の町づくりは拡大ではなく縮小のための知恵や工夫を出すことが協議され、決定的には利害関係者で対立している市民同士でこそ協議して納得感のある決定を導いていく以外にないという合意形成の道筋が協議された初めての市政報告会であった。(自営業者 三輪良友)



編集後記

<http://shirakawa.mie1.net/>

◆私達が選挙で市長を選び、市議会議員を選んでいる。一方で、私達が選んだ市長や議員は私達が望んでいる政策を実行しているのだろうかと思いついた時に、そうではないことが多くなっているのではないのか。平成25年度の予算案に、今の情勢で史上最大の支出を見込むことは家計の実感から見て、常識的には考えにくいことである。また、平成27年度に中核市に移行する計画が進められているが、そこに市民が置き去りにされているのではないのか。私達が一票で選んだことは間違いない事実だが、何をしたいかと思いついたのかについては、選ばれた人が実際に何をするかを点検・検証するという地道な行動を怠ると、意見や思いは実行されず、後で文句を言うしかないか、それでは後の祭りである。この悪循環を断つために、市民が日常的に政治参加することの意義がある。(年金生活者 岡村宣夫)

## 第112回タウンミーティング -1/26

➤ 「憂鬱な圧勝をもたらした衆議院選後に関われる負担の分配」  
: 白川議員

衆議院選後初めて開催されたタウンミーティングであったが、白川議員の選挙に対するコメントは、やはり辛口だった。自民党の圧勝でも、自民党への支持ではなく、民主党への批判票、白票も全国で200万票、越谷だけでも5,000票以上...



しかし、この日の最大の焦点は我が郷土、越谷市の問題。その問題の核心は、第三庁舎問題でもなく、本庁舎の耐震化問題でもなく、越谷市議会、ひいては越谷市議会議員一人ひとりの職務と責任についてであった。議会は市政に対する調整弁となりえているのか、議員は議決の結果に対し、いかに責任を負うのか...

これらの問題は、国政以上に我が越谷市民の共通の関心事であるはずだ。(蒲生在住 白井徳夫)

## 第113回タウンミーティング -2/26

➤ 中核市の移行に向けた自治会の課題

: 自治会長と参加者による討議

2月26日拜聴の機会に恵まれ出席しました。中核市移行ありきの市行政の姿勢が浮き彫りになったような気がします。職員も増やします、建物も建てます、保健所も作ります。県からの権限譲渡に伴う交付金upと維持費用はどうなるのでしょうか。国も地方も過去の負の遺産を、誰が何時何処に負担して行くか叫ばれている時、もう少しきめ細やかな説明が必要ではないでしょうか。参加者の皆さんが熱心に討議している姿に感動しました。(大泊在住 佐藤 佐)



\* 第114回(3/23)は次号に掲載します。

第115回は、4/20頃に開催予定です。

## 「市民から見える議会・行政という景色」とは

議会は市民あつての議会であり、越谷の知恵結集の中心軸であるはず。現在ある議会が越谷を支える発信点の役割を担っているか。またその自覚を持った場所であり続けているか。例えば議会改革が進みかけては驚愕しているのは、越谷のリーダーたる自覚あつてのことか。すべての思考の先に、「市民益」に資するという原則が貫かれていない議会力・議員力が粗害要因を作り出してはいないか。政党が違えば意見の違いは当たり前、その上で合意形成を量っていく事が議会本来の機能であり、そのプロセスを市民にオープンにしていこうと、地域のリーダーの「厚みある教養」ではないか。

市民が見る行政への評価が必ずしも高くない。右肩上がりの時代の市民要望の執行と現在とでは大きく財政状況が違っているのであり、市民サービス低下は必然だ。

その市民の思いとの差を埋める説明なしに放置することは、「越谷がどうなっており、どうなりうるか」の共通認識を共有することを先送りし、解決の糸口を遠ざける。

行政の考える事業計画すべてにムダはないはずだ。しかし、現状の財政状況について市民に理解を求める努力なしに、優先順位を付けざるを得ないこと、財政規律を機能させることの重要性を説き、官民一体でシーリングを可能にしていく条件を作り上げていくことはできない。市民ニーズに最も近い関係にある議員諸氏の市民への説得が、さらに条件を高めることになることは論を待たない。

(大竹在住 西川孝一)